

# 「フルコース」の 安全対策を

ロシアのウクライナ侵攻などに端を発し、石炭やLNGといった資源価格が世界で急騰しています。燃料不足などにより、真夏や真冬に電力需給が逼迫するとの懸念もあります。電気の価格を安定化させ、十分な量を供給するためにも原子力発電への期待が世界で高まっています。今回の特集号では島根県出雲市出身で料理系大食いYouTuberのロシア人佐藤さんに中国電力島根原子力発電所を訪ねてもらい、現場を体感して頂きました。



— 安心を届けるために

**中国電力**

**島根原子力発電所**



## CONTENTS

p2-3 島根原子力発電所の安全対策 —あなたの疑問に答えます

p4-5 地域に根ざす、所員の横顔  
井原 英定さん 飯塚 亜津子さん 戸屋 延哉さん

p6 ともに歩む、地元の期待  
【鹿島タクシー代表】物部 淳治さん  
【佐太神社 崇敬会会長】宇藤 志郎さん  
【元鹿島町連合婦人会会長】来間 玄江さん

p7 島根原子力発電所ツアー  
ロシア人佐藤さんが視察

p8 対談 —豊かな暮らし、守る思い  
ロシア人佐藤さん  
【技術部】岡田 ゆりえさん  
【品質保証部】井戸原 広樹さん  
【廃止措置・環境管理部】古藤 希さん



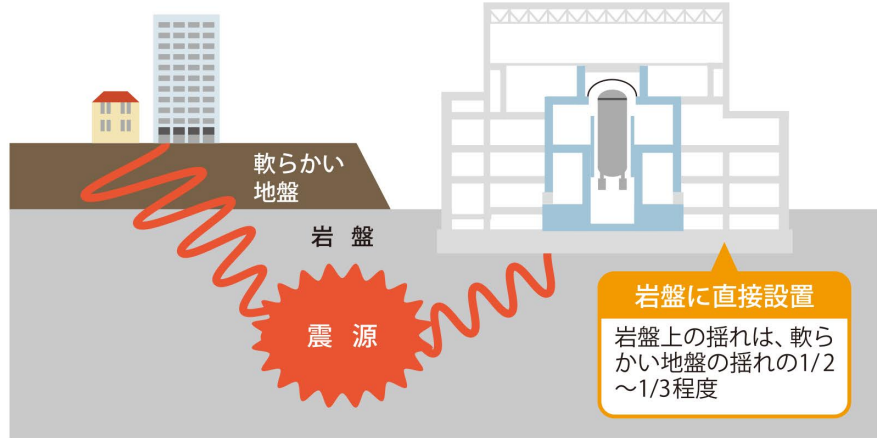
福島第一原子力発電所の事故を教訓とし、国は原子力発電所の安全規制を強化しました。地震や津波はもちろんのこと、火山の噴火や火災なども考えられる様々な事象が起きても原子炉を安全に止め、冷却し続けるためです。島根原子力発電所2号機は「原子炉設置変更許可」と呼ばれる新規基準に基づく設計方針に関する国の審査に合格。現在も安全確保のための多様な対策に取り組んでいます。どれほどの対策を施しているのでしょうか。QA方式で紹介します。

### A1 原子炉建物は強固な地盤に

地盤が軟らかいと地震の揺れは大きくなります。島根原子力発電所では、軟らかい地盤を削り取り、強固な岩盤に原子炉などの重要設備がある建物を設置。地表にある家屋や商業ビルなどと比べて、同じ地震に見舞われても揺れの大きさは二分の一から三分の一程度に低減されます。さらに新規基準に基づき追加対策として、原子炉を冷却するために必要な配管や機器類の耐震補強を施しています。

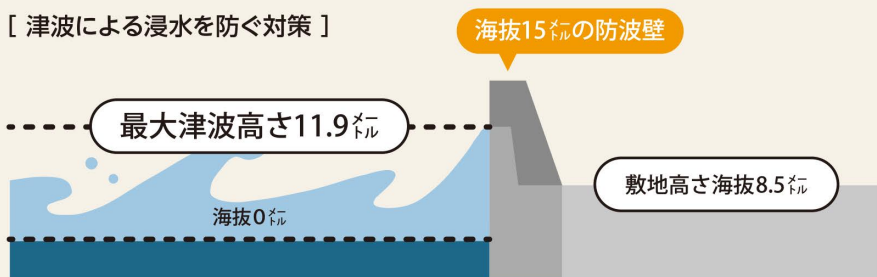
## Q1 大地震が起きても大丈夫なの？

[地震に耐える設備の設計・建設]



## Q2 巨大な津波が発生した場合は？

[津波による浸水を防ぐ対策]



### A2 海拔15メートルの防波壁が守る

日本周辺の海には数多くの断層があります。それらの断層を考慮した結果、発電所に襲来する最大の津波高さを11.9メートルと評価しました。これに対して発電所敷地を取り囲むように海拔15メートルの防波壁を設置し、敷地内への浸水を防いでいます。

# の疑問に答えます!

※イラストは中国電力の資料を基に電気新聞が作成

## Q3 想定を超える津波が来たらどうするの？



▲ 水密扉(建物内)

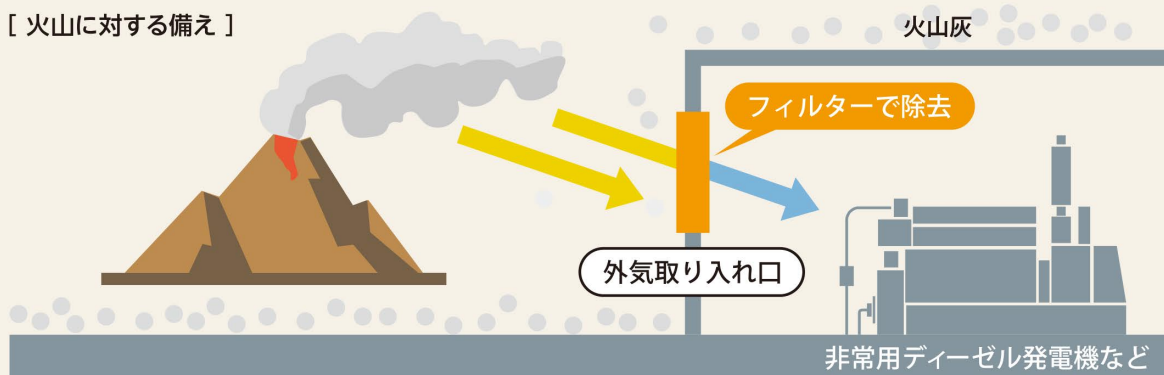
▲ 水密扉(建物外)

### A3 約1000枚の水密扉を設置

万が一にも津波が防波壁を乗り越えた場合も考慮し、発電所建物入り口に水密扉を設置。さらに建物内も、冷却設備や電源設備のある部屋の入り口に水密扉を設置し、重要設備への浸水を防いでいます。その数は合計約1000枚。厚さは約25センチもあります。

## Q4 発電所周辺には三瓶山などの活火山がある。これらが噴火しても影響は受けないの？

[火山に対する備え]



### A4 火山灰をシャットアウト

発電所の近くにある島根県の三瓶山などの火山の影響を評価し、これらが噴火しても火砕流は発電所まで届かないことを確認しました。しかし、風向きによって火山灰が降り注ぐ恐れがあるため、建物内に入り込んで設備が故障しないよう、外気の取り入れ口に編み目の細かいフィルターを設置。火山灰の侵入を防ぎます。



### Q6 山火事などが発電所に迫ったらどうするの？

発電所敷地の外で山火事が発生することも想定しています。敷地の周辺には森林が存在。これらが燃えても発電所への延焼を防ぐため、敷地内の森林の一部を伐採しモルタルで固めて約21メートル幅の防火帯としています。



防火帯

発電所敷地の外で山火事が発生することも想定しています。敷地の周辺には森林が存在。これらが燃えても発電所への延焼を防ぐため、敷地内の森林の一部を伐採しモルタルで固めて約21メートル幅の防火帯としています。

### A6 防火帯で延焼させない

### Q5 地球温暖化の影響なのか、最近は何回も竜巻が発生しているが。

[ 竜巻に対する備え ]

給気口などに防護ネットを設置



▲ 防護ネットで飛来物に備える

車両などは地面に固定

発電所敷地内や周辺地域で竜巻が発生することも考慮しています。国内外の竜巻データを分析し、起こりうる最大の竜巻として風速92メートルを想定。飛来物がやってくることも考え、給気口などに防護ネットを設置して備えています。また、車両や資機材が飛ばされないようロープなどで地面に固定します。

### A5 防護ネットを設置し備え万全

### Q7 様々な安全対策を施してあるのは理解した。それでも想定を超える災害が起きたらどうするの？



▲ 耐震構造の緊急時対策所(右手前)



▲ ガスタービン発電機

想定できる様々な自然災害への対策を行っています。また、それを越える事態が発生したときの備えも怠りません。重大事故を防ぐためには原子炉を冷却し続けることが大切。そのため島根原子力発電所には、何重もの設備を配置しています。停電状態になると部の冷却設備しか動かせなくなります。その対策として、津波の影響を受けない高台に、地震に強い非常用のガスタービン発電機を複数台設置。さらに電源車14台を配備しています。

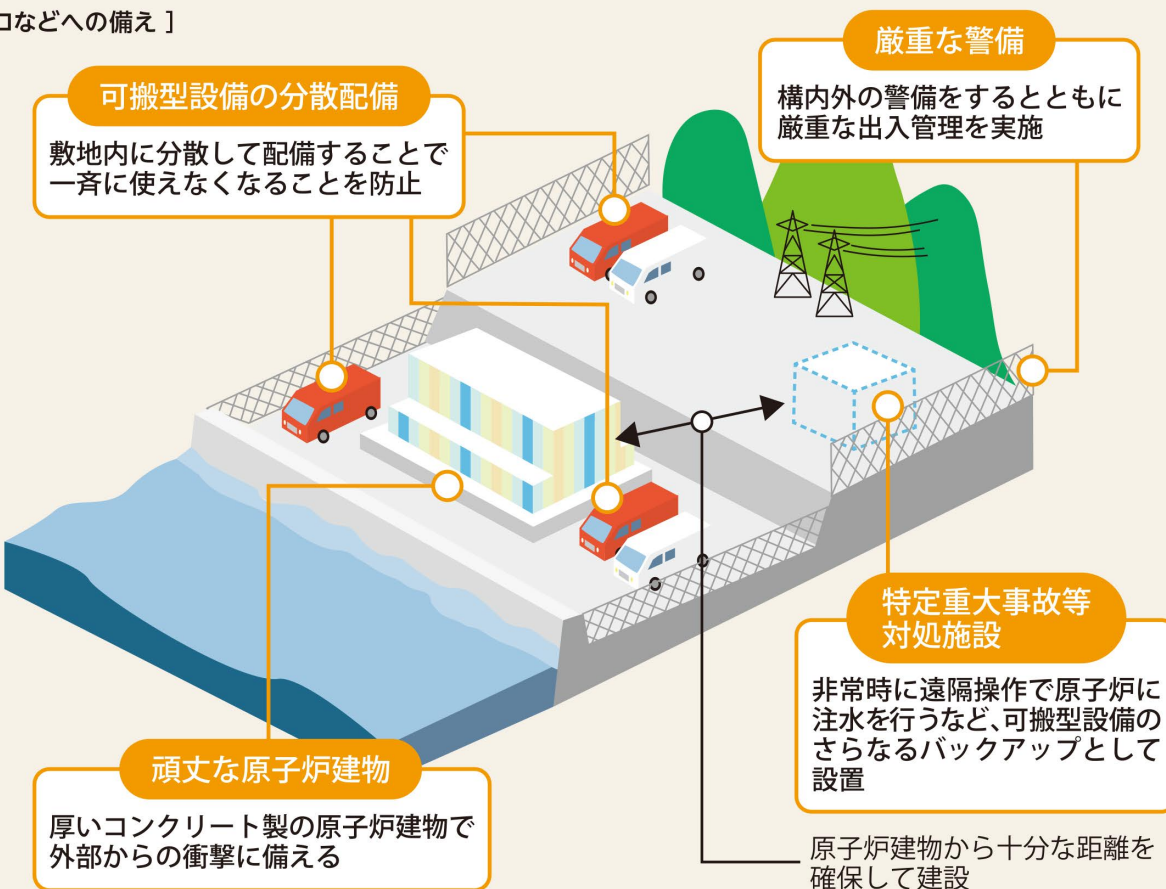
想定できる様々な自然災害への対策を行っています。また、それを越える事態が発生したときの備えも怠りません。重大事故を防ぐためには原子炉を冷却し続けることが大切。そのため島根原子力発電所には、何重もの設備を配置しています。停電状態になると部の冷却設備しか動かせなくなります。その対策として、津波の影響を受けない高台に、地震に強い非常用のガスタービン発電機を複数台設置。さらに電源車14台を配備しています。

### A7 何重もの設備で冷やす

# 安全対策、あなた

### Q8 自然災害から発電所を守ることは分かった。でも、テロリストによる航空機落下などは防げないのでは？

[ テロなどへの備え ]



**可搬型設備の分散配備**  
敷地内に分散して配備することで一斉に使えなくなることを防止

**厳重な警備**  
構内外の警備をするとともに厳重な出入管理を実施

**特定重大事故等対処施設**  
非常時に遠隔操作で原子炉に注水を行うなど、可搬型設備のさらなるバックアップとして設置

**頑丈な原子炉建物**  
厚いコンクリート製の原子炉建物で外部からの衝撃に備える

原子炉建物から十分な距離を確保して建設

発電所では、警察や海上保安庁などと連携しながら、日ごろから構内外の警備を実施しています。また、万が一の事態に、原子炉の冷却に必要な設備が同時に使用できなくなる事態を防ぐため、電源車や大型送水車などの移動可能な設備を分散配備しています。さらにバックアップとし

### A8 常に冷却可能に

て、非常時に遠隔操作で原子炉を安全に冷却するための対応ができる「特定重大事故等対処施設」を設置します。この「特定重大事故等対処施設」は、故意による航空機墜落なども想定し、原子炉建物から十分な距離を確保した場所に設置します。



私は総務課に勤務し、発電所内の安全衛生や構内施設の管理、資材の契約業務などに就いています。業務の幅は広く、発電所員や協力会社の方が社宅などから発電所に通勤するためのバスの運行管理も行っています。新型コロナウイルスの感染対策を取りまとめるのも私の重要な業務ですね。

松江市で生まれ育っているのですが、幼少のころから地元のお祭りである「鑿行列」に40年以上も関わっています。毎年秋に、松江市内の町内会や団体が、鑿と呼ばれる大型の太鼓を打ち鳴らしながら練り歩くお祭りです。古来の正月行事「左義長」が起源となり、大正時代から現在の鑿行列の形になったものです。

山車に直径2メートル近い鑿を水平に置き、子どもからお年寄りまで大勢で太鼓をたたき鳴らすため、町内会を挙げた盛大なお祭りといえます。世代を超えて参加できるので、町内が一体となつて取り組めることが最大の魅力だと考えています。

## 町が一体

となる魅力



総務課 課長代理  
井原 英定 さん

◀ 鑿を打ち鳴らす井原さん(左)

鑿は親の世代やその前の世代から受け継がれています。この伝統を守りつつ、子どもたちや孫世代にまで引き継いでもらいたいですね。

地元の松江は住みやすい街です。週末に、目的もなく一人でぶらぶらと歩いているだけでも落ち着くほど。当社の事業所も多く存在しているので地域との関わりが多いと思います。

鑿行列の役員に就いていることから、普段から町内の方と話す機会も多く、原子力について説明することもあります。話の内容もそうですが、それ以上に私自身の言葉でお伝えしたことにより、ご理解を頂いていることも多いと感じています。

私たちが島根原子力発電所を説明する際、「日本で唯一、県庁所在地にある原子力発電所」と表現することもあります。それだけでなく、方々に身近な施設とも言えます。これまでと同様に、地域の一員として皆さま方と共に歩んでいきたい。同時に、今後も地域の皆さまから信頼いただける発電所であり続けたいです。

# 地域に根差す、所員の横顔

島根原子力発電所には協力会社を含めて3千人ほどが働いています。

社員たちは様々な災害などから発電所を守るための安全対策を向上させると同時に、地域を元気にするための活動に取り組んでいます。

それら中国電力社員の姿を紹介します。





# 丁寧な説明

とことん



渉外運営部 副長  
飯塚 亜津子 さん

職場のメンバーと思考している時間は楽しいものです。そして子どもたちの輝く表情を見ると、この担当に就いて良かったなと心の底から思えます。

業務以外でも地域の皆さんとのつながりを大切にしています。お付き合いのある女性団体の皆さんが佐太神社の門前市やお祭りに出店された際には、個人的に立ち寄りたりしています。世間話に花を咲かせながら買い物するのは楽しいことですし、地域を盛り上げようとする皆さんの姿に私も元気をもらっている気がします。

松江市鹿島町をはじめ、地域の皆さんが島根原子力発電所を受け入れてくださいました。今も変わらず発電所の運営を支えて頂いていることは感謝の念に堪えません。地域の皆さんに、中国電力が来てくれてよかったと思われようかな発電所にすることが地域への恩返しになると考えています。

発電所は関係者全員の思いで作られていくもの。安全性をより一層高め、私たちの日々の取り組みの先には発電所を受け入れてくださる地域の皆さんがいらっしやる。このことを、所員一人一人が胸に刻んでいてほしい。私自身もこの気持ち忘れず、今後とも地域に寄り添う発電所として運営していきたいですね。

原子力発電への理解を深めて頂くため、地域の皆さんにご参加いただく島根原子力発電所の見学会や女性団体を対象とした勉強会に携わっています。発電所を見学して頂くほか、放射線の性質などについても意見を交わしています。

また、地元の小中学生には、エネルギーや電気に関する出前教室を開いています。地域貢献活動として、地元の小学校に向いてクラブ活動のお手伝いをしたり、公民館とタイアップした工作教室にも取り組んでいます。心がけていることは、子どもたちが興味を持てるような内容で構成すること。例えばクラブ活動では電気やエネルギーにとどまらず、シャボン玉に何を加えれば膜が強くなって割れにくくなるかなど、子どもたちと一緒に考えながら様々な実験をしています。

どのように展開すれば楽しく学んでもらえるのか、



▲ 祭りで出店する女性団体の皆さんのお店に立ち寄る飯塚さん(左)

発電所の配管や弁の保守管理が私の担当です。現在は新規規制基準適合性審査の対策工事に取り組んでいます。建物間でつながる配管のルートを変更する工事が主な業務です。

もともと松江市出身で、ずっと暮らしてきました。小学生の頃から野球をやっており、今でも地元の草野球チームに参加。また小学4年生の息子が所属する少年野球チーム「本庄持田スピリッツ」で1年前からコーチも務めています。

地元の2つの小学校で構成しており、20人近くが在籍しているチームです。人数が少なく、なかなか勝てないのが悩みの種。ただ、6年生が少ないため4年生でも大会に出られると経験ができます。

子どもたちに指導する際に心がけていることは、伝えたいことを一方通行にしないこと。エラーや見逃し三振などをしたときに「どうだった？」と尋ねて自分で考えさせるような心がけています。

その結果、子どもたちの成長する姿を見られることがうれしいですね。特に私がアドバイスを送ったことができるようになってくると、やりがいを感じます。

業務を進めるうえで、地域の皆さまに安心

# 安心へ役割のしっかり



保修部(タービン) 弁・配管担当  
戸屋 延哉 さん



少年野球チームのコーチとして指導する戸屋さん(左)

してもらったためにも、我々一人一人がやるべきことを確実にやる必要があると考えています。安全対策工事など取り組むべき事柄は多いものの、優先順位で悩むときは上司にも相談するなどしてしっかり進めていきたいです。

今やるべきことは、再稼働に向けた工事を一つずつ着実にやること。そうすることで二歩三歩ゴールに近づくと確信しています。先行して再稼働を果たしたプラントの情報や知見を基に、今後もしつかりと安全対策工事に取り組む考えです。

島根原子力発電所の停止期間は長期化しています。まずは再稼働ですが、再稼働後も地域の皆さまに安心して暮らして頂けるよう、「自信を持って安全に発電所を運営していく」という決意を胸に日々の業務に取り組みしていきたいです。



# ともに歩む、地元の期待

松江市鹿島町は自然があふれる街で、幼少期から暮らしています。かつては漁業が盛んでしたが、今は後継者不足。地元の産業として、発電所が頼みの綱となっています。

当社は1969年に祖父が設立し、私は3代目。現在はタクシーに加えてマイクロバスも保有しています。中国電力の社員さんを寮から発電所へ送迎する仕事も請け負っているので、当社にとって発電所は不可欠な存在といえます。

私は、まっつえ北商工会の理事や鹿島町産業振興協同組合の副理事長といった地域の役職にも就いています。その関係もあり、鹿島町を盛り上げるための花火大会など様々なイベントを企画しています。

2012年に初めて花火大会を企画した時は反対意見もありましたが、町内の子どもたちに夏休みの楽しい思い出

## 産業活性化

### 「頼みの綱」



鹿島タクシー 代表取締役  
物部 淳治 さん

を残してやりたいと考え、メンバーで資金を出し合って実行しました。結果的に町内の多くの方から喜ばれましたよ。

コロナの影響で今年は3年ぶりに開催。中国電力をはじめ発電所構内の多くの企業にもご協力を頂き、真夏の夜空に3千発を打ち上げることができました。多くの中国電力の社員さんが手伝ってくれたので、とても助かりました。

鹿島町ではなかなか新たな産業が育ちません。若者も高校を卒業すると都会に出て行ってしまいます。その中で、発電所が雇用の創出にも一役買ってくれています。今後も地域活性化に向けて、町が元気になるような仕掛けを考えたいです。中国電力の皆さんには、それを後押しして頂けると嬉しいです。

私は佐太神社の運営委員を務めています。旧暦10月に全国から八百万の神が出雲に集結し、いくつかの神社で神在祭が執り行われます。その中でも佐太神社の神在祭は文献上で最も古く、祭りの次第も500年前から受け継いでいるほど由緒正しい神社です。祭礼に舞う

佐陀神能は、2011年にユネスコ無形文化遺産に登録され、活気があふれています。

神社は中世から

## 「げんじ」の火ともし



佐太神社 崇敬会会長  
宇藤 志郎 さん

存続しており、国の重要文化財に指定されています。40年に1度、式年遷宮にあわせて修復・修繕を行っており、2016年に完成した直近の工事は特に規模が大きかったです。屋根のふき替えや柱の継ぎ足しなども行いました。

発電所の建設と同時に、私たちが生活する地区に中国電力の住宅や寮ができました。社員の皆さんには地域の行事に参加いただき、時には夜通しで囲碁大会を開催したこともありました。また、地元の女性の皆さんが寮の食堂で働くなど、社員の皆さんとは深い付き合いをしてきました。

東日本大震災に端を発し、発電所が停止していることを心配していましたが、国の審査に合格したことを受け、私が会長を務める地元団体「豊かな鹿島町を創る会」から松江市長へ早期稼働を要望する陳情を行いました。発電所は町作りの基本であり、発電所が稼働しないと街に覇気が戻りません。一日も早い再稼働を望んでいます。

神事で神様にお供えする食事は、火錐といわれる杵と臼で熾した火で調理をします。その火を「原始の火」と呼んでいます。漢字こそ異なりますが、発電所も「原子」。双方に火をとますことで、再び町に活気を取り戻したいですね。

日本舞踊やフォークダンス、コーラスなどが趣味です。そのため中国電力が広島交響楽団を鹿島町に呼んでくれた時は、友人とともに楽しみにしていたものです。発電所が立地したおかげで各地に公民館が建ち、文化ホールも設立。発電所の誕生によって鹿島町の文化が発展したと考えています。

発電所の誘致が決まったとき、原子力発電の仕組みはよく分かりませんでした。そのため鹿島町連合婦人会の会長に就任してからは、知識を深めるため原子力発電について学び、様々な原子力立地点の女性団体と交流を重ねました。

各地の実情を聞きますと、電力会社との付き合いは私たちが最も深いと実感しましたね。他地域の方からも「島根原子力発電所が最も地域と一体となっているとの印象を受けた」との感想を伺ったほどです。

東日本大震災で原子力事故が起きたものの、鹿島町で戦々恐々としている人は見かけません。何十年もかけて築いてきた中国電力と地域の深い絆があるからです。

松江は豊かな自然を満喫できる地域。高齢者はのんびり

## 文化発展と

### 絆を感じ

暮らせるし、子育て世代にとっても最適な町です。夕焼け時に海岸を散歩していますが、本当に美しい。この自然を守り、大切にすることを心がけたいです。

年末に発電所の社員さんが1人暮らしの高齢者宅を訪問し、電灯を掃除してくれました。ありがたいですね。ぜひとも早く再稼働を果たし、安定供給を続けてもらいたい。そのように地元の私たちは願っています。



元鹿島町連合婦人会 会長  
来間 玄江 さん



# まるでモンスター映画の対策指令所!?! 巨人が現れそろう…大きな壁の正体は!?!

## 島根原子力発電所ツアー

### ロシア人佐藤さんが舌を巻く 何重ものリスクマネジメント

ロシア人佐藤さんの母校は松江工業高等専門学校。島根原子力発電所の近くにあり、発電所を「身近な存在に感じていた」そうです。そのロシア人さんが岩崎晃所長の案内を受けながら、島根原子力発電所2号機の安全対策設備と建設中の3号機内部を視察。自然災害などに対する様々な設備を間近に見て「何重ものリスクマネジメントを施してある」と感心した様子でした。

ロシア人さんが島根原子力発電所を視察したのは2022年11月下旬。あいにくの雨模様でしたが、岩崎所長の案内で、まずは移動式の電源車などを保管している海拔50メートルの高台へ移動。予備の車両も含めて分散配備していることを聞きました。



▲ 防波壁は海拔15メートルもの高さを誇る



▲ 厚さ25センチメートルの水密扉で海水の浸入を防ぐ



▲ 緊急時対策所の役割を岩崎所長(右)が説明



▲ 非常時にはガスタービン発電機などで冷却設備へ電力を供給すると岩崎所長(左)が説明

か?」とロシア人さんは質問。岩崎所長が「定期的に訓練しています。大規模な訓練は年に一度行いますが、設備ごとの個別訓練も年間90回以上は取り組んでいますよ」と回答すると、回数多さに驚いた

また、構内で土石流が発生し、作業現場まで対応要員が移動できな

くなるような方が「事態に備え、地下通路を設置していることも説明。いざというときには、この通路を通じて現場へ行き、原子炉を冷却することで重大事故を防ぎます。ロシア人さんは「何重もの対策が施されている」としきりに感心していました。

#### 状況把握を確実に

次に見学したのは緊急時対策所。耐震構造で放射性物質の侵入も防ぐことができる建物で、重大事故が発生した場合の指揮所となります。150人程度の要員が1週間対応することが可能。スクリーンなどが何台も配備しており、発電所内の状況をしっかり把握で

きるのも特長です。

対策所は窓がなく、内装もコンクリート一色。「ゴジラの映画に出てきそうな部屋」との感想を漏らしながら、ロシア人さんは興味深そうに眺めていました。

次の現場へ移り、非常用の発電機として海拔44メートルの高台に設置された6千kVAのガスタービン発電機3台が入った建物を見学。また、海拔15メートルもある防波壁を見上げた際には、「(人気アニメ)の進撃の巨人に出てくる巨大な壁みたい」との感想を述べ、その規模に驚いていました。

#### 繰り返し訓練を実施

電源車や常設の冷却装置など多くの安全対策設備を緊急時に動かすためにも「何か準備をしています

様子でした。

大規模な訓練は「常設の冷却設備が壊れ、土石流によって道路も使えないなどの過酷な状況を想定して行います」と岩崎所長。ロシア人さんは「リスクマネジメントを徹底するために様々な対策を施し、最悪に最悪を重ねたシナリオを作って訓練に取り組んでいるんですね」と前置きし、「地震が起きても発電所が最も安全かも」と実感した様子でした。

#### 「冷やす」に全力

3号機の原子炉建物へ移動し、原子炉格納容器の内部や原子炉の底部なども歩きながら視察。このプラントはABWR(改良型沸騰水型軽水炉)という型式で、安全性の向上を図っています。稼働を始めたら原子炉周辺に立ち入ることはできません。この貴重な機会を得たことにロシア人さんは興味津々。原子炉建物内にも様々な注水設備や冷却装置があるため、岩崎所長の説明に聞き入りながら「とにかく冷やすことに全力を尽くしていることが分かりました」と理解を深めていました。



▲ 複数台の移動式冷却設備を備えていると説明する岩崎所長(左)



▲ 移動式設備の多さにロシア人さんは「すごい」と驚いていた



▲ 原子炉格納容器への入り口

地元出身



発電所内の食堂で美味しいうどんをいただきました!

#### Profile

料理系大食いYouTuber  
ロシア人佐藤さん

島根県出雲市の出身で松江高専の卒業生。2008年にテレビ東京系列「元祖!大食い王決定戦」でデビューし、16年に料理や大食いを配信するYouTubeチャンネル「ロシア人佐藤のおなかがすいたらMONSTER!」を開設。現在のチャンネル登録者は95万人以上。21年7月に全ての人がそれぞれの「幸福な食卓」で人生が豊かになるようにと願いを込め、「OTEMOTOプロジェクト」を立ち上げた。



ロシアン佐藤さんは出雲観光大使も務め、YouTubeなどで島根県の様々な情報を発信しています。島根原子力発電所に勤務する若手社員3人と島根の魅力を語り合ってもらいつつ、ロシアンさんが取り組む「OTEMOTOプロジェクト」や発電所の安全対策などについて意見を交わしてもらいました。

**新鮮な魚と古代ロマン  
魅力ある島根が大好き**

**ロシアン** 島根は山も海も近く、どちらの食べ物もおいしいのが魅力です。

**岡田** 私は広島出身ですが、就職で島根に住み始めた頃、スーパーで高級魚の「のどぐろ」が安い値段で普通に売られているのに驚きました。新鮮な海産物が手に入りやすいのでうれしく思います。

**ロシアン** 島根沖で捕れる「のどぐろ」は

**技術部**

**岡田 ゆりえ** さん

発電所の総括業務を担当。主に発電所の安全に関する情報などの取りまとめを行っている。



おいしいですよ。塩焼きが一番ですが、白米と一緒に炊き込むと、のどぐろの脂が白米にしみこんで最高においしく頂けます。

**井戸原** スーパーで購入する刺し身もおいしい。そして神社仏

閣が多く、歴史のある町だと感じています。

**ロシアン** そうなのです。日本の神話が書物としてほぼ完璧な形で残されているのは古事記のほかに出雲国風土記のみ。それを裏付ける神社や遺跡が現存しており、古代の歴史を肌で感じられるところも大きな魅力です。そんな島根が大好き。私は出雲市出身で母校は松江工業高等専門学校。そのため、近くにある島根原子力発電所は日常生活の中にあるという印象で身近な存在でした。皆さんが中国電力に就職した理由は何でしょうか？

閣が多く、歴史のある町だと感じています。

**ロシアン佐藤さん**

**若手所員**



▶ 島根の魅力について盛り上がりつつ、安全に対する所員の思いに触れたロシアンさん(右)



**品質保証部**

**井戸原 広樹** さん

不適合検討業務を担当。設備の不具合などの情報を収集、管理している。

# 豊かな暮らし、 守る思い

**古藤** 私は松江市出身で、地元の皆さんに幼少期からお世話になっていました。地元で貢献したいと思い、中国電力を選択しました。ロシアンさんは先ほど、安全対策設備をご覧になったと思います。どのような感想を持たれましたか。

**食もエネも自給率低く  
安全意識で役割果たす**

**ロシアン** 考えられるリスクに

何重もの対策を施して、今は安全対策設備に費用と労力をしっかりとかけていますよね。岩崎所長に案内して頂きましたが、皆さんの安全に対するひたむきな姿を見られて感激しました。

**井戸原** 私は入社後に安全対策

設備を学び、これだけの対策を施していれば安全だろうと考えました。しかし仕事を続けるうちに「安全と考えていた部分でも、さらに安全性を高められる箇所があるのではないか」と考えを改めました。今後も、安全への意識をさらに高めていきたいです。

**岡田** 私たちにとって、発電

所を安全に運転することが大前提。小さなトラブルやミスをなくすよう心がけています。全員で取り組むことで、全体的な安全につなげていきたいと考えています。

**ロシアン** チームワーク

で電力の安定供給に取り組んで頂いて心強いです。感謝して電気を使わないといけませんね。

食べ物についても似ていて、私は生産者や調理者と食べ手の橋渡し役を担うため、「OTEMOTOプロジェクト」を推進しています。日本は食料自給率が低いので、食べ物へのありがたさを感じてもらおうと同時にフードロスも減らしたいと考えています。日本は食料と同様にエネルギー自給率も低いですよ。



**廃止措置・環境管理部  
放射線管理担当**

**古藤 希** さん

放射性廃棄物の処理・管理を担当。発電所から出る固体廃棄物を敷地内で管理する業務に従事している。

**古藤** エネルギー自給率を高めるためにも、準国産エネルギーである原子力発電は重要な役割を果たします。これを安定して運転するためには安全確保が不可欠。地域の皆さまに安心してもらうためにも、私たち一人一人が自らの業務を確実にこなしていく必要性を感じています。

**岡田** 島根原子力発電所が稼働すれば、火力発電所の燃料消費量を減らせます。エネルギー自給率の向上と同時に二酸化炭素(CO2)の排出削減効果も見込めます。そのためにも私たち全員で安全意識を高く持ち、安全な発電所を運営していきたいです。

**ロシアン** 皆さんのお話を伺い、改めて社員さんたちが高い安全意識を持ち、やるべき仕事をしっかりとこなしてくれていると感じました。私たちの安定した生活を、皆さんが守ってくれているのですね。